

新薬候補化合物創出へ

民間非営利団体（NPO）のバイオグリッドセンター関西（大阪府豊中市、下條真司理事長、06・6873・2156）と大阪大学は、新薬候補化合物を生み出すバイオベンチャー企業育成プロジェクト「創薬バリエーション」を始めた。計算機による新薬候補化合物の探索や化合物最適化の手法を確立、日本の大手製薬企業のニーズが高

い新薬候補化合物を実際に作り、ライセンス販売できるようなバイオベンチャー企業を育てていく。

バイオグリッドセンター関西と阪大

同プロは文部科学省

が推進する大阪北部（彩都地域）知的クラスター創成事業の実用化研究テーマに沿って実施する。期間は2年間。阪大や京大、産業技術総合研究

所、大学発ベンチャーのプロテインクリスタル（大阪府茨木市）などが参画する。

新薬開発候補のたんぱく質の探索から結晶化、構造解析などを行う。また計算機を用いた化合物の最適化、新規

化合物の探索も進める。有力な化合物は実際に合成、動物実験に取り組む。将来は新薬候補化合物を生み出せるベンチャー企業設立を目指す。

プロジェクトでは、モデルマウスの実験によりアレルギーや脳損傷、筋ジストロフィーや脳損傷、筋ジストロフィー症状の緩和効果などが確認されている経口投与タイプの酵素活性阻害剤の最適化、新規化合物の探索などを進める。

バイオV B育成プロジェクト開始